

すいすいビジョン2029アクションプラン管理指標の進捗状況 No.1

1. 安全 ～安全で安心できる水道水の供給～

項目	単位	※1 優位性	※2 P I	積算方法	基準年度	実績	計画	※3PI公表類似 団体平均
					平成30年度 (2018年度)	令和2年度 (2020年度)	令和2年度 (2020年度)	令和元年度 (2019年度)
水質基準不適合率	%	↓	—	(水質基準不適合回数/全検査回数) ×100	0.0	0.0	0.0	—
水源確認回数	回	↑	—	水源の巡視等の回数	28	27	28	—
鉛製給水管率	%	↓	A401	(鉛製給水管使用件数/給水件数) ×100	6.9	4.4	4.5	8.4
直結給水率	%	↑	A204 を援用	(直結給水戸数/(直結給水戸数+受水槽戸数)) ×100	70.1	71.9	71.1	—
小規模貯水槽水道点検率	%	↑	A205 を援用	(小規模貯水槽水道点検件数/小規模貯水槽水道数) ×100	95.5	93.6	95.8	—

2. 強靱 ～災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築～

項目	単位	※1 優位性	※2 P I	積算方法	基準年度	実績	計画	※3PI公表類似 団体平均
					平成30年度 (2018年度)	令和2年度 (2020年度)	令和2年度 (2020年度)	令和元年度 (2019年度)
地下水源率	%	↑	—	(地下水量/年間総配水量) ×100	11.1	10.2	9.7	—
基幹管路の耐震適合率	%	↑	B606-2	(基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長/基幹管路延長) ×100	48.5	52.8	54.3	53.2
重要給水施設管路耐震化適合率(箇所比)	%	↑	—	(管路の耐震適合性を有する重要給水施設箇所数/重要給水施設箇所数) ×100	8.7	10.1	11.6	—
法定耐用年数超過管路率	%	↓	B503	(法定耐用年数を超過している管路延長/管路延長) ×100	37.7	38.0	38.1	22.9
管路の更新率	%	↑	B504	(更新された管路延長/管路延長) ×100	0.91	1.68	1.22	0.68
配水池点検率	%	↑	—	(劣化診断等の点検を実施した配水池数/総配水池数) ×100	0.0	18.2	27.3	—
応急給水施設数	箇所	↑	B611を 援用	配水池・緊急貯水槽・組立式貯水槽等の設置箇所数	21	45	45	—

※1 優位性「↑」は数値が高い方が望ましい場合、「↓」は数値が低い方が望ましい場合

※2 PI=Performance Indicator：日本水道協会が平成17年(2005年)1月に制定し、平成28年(2016年)3月に改正した水道事業ガイドラインに定められている119項目の業務指標

※3 PI公表類似団体：給水人口30万人以上50万人未満、自己水比率30%以上100%未満で業務指標PI(JWWA Q100:2016)を公表している、
福山市、一宮市、横須賀市、高崎市、前橋市、倉敷市、豊橋市、高槻市の8事業者

すいすいビジョン2029アクションプラン管理指標の進捗状況 No.2

3. 持続 ～将来にわたり持続可能な水道事業の経営～

項 目	単位	※1 優位性	※2 P I	積 算 方 法	基準年度	実 績	計 画	※3PI公表類似 団体平均
					平成30年度 (2018年度)	令和2年度 (2020年度)	令和2年度 (2020年度)	令和元年度 (2019年度)
経費(料金)回収率	%	↑	C113	(供給単価/給水原価) ×100	107.3	123.9	115.0	108.3
給水原価	円/m ³	↓	C115	(経常費用-(受託工事費等+長期前受金戻入見合いの減価償却費等))/有収水量	140.9	135.1	147.6	129.6
流動比率	%	↑	C118	(流動資産/流動負債) ×100	199.2	169.9	212.3	245.7
給水収益に対する企業債残高の割合	%	↓	C112	(企業債残高/給水収益) ×100	187.1	243.7	256.9	271.9
研修時間 (内部+外部)	時間/人	↑	C203 を援用	(職員が研修を受けた時間×受講人数) /全職員数	22.4	6.7	22.8	—
配水量1m ³ 当たり電力消費量	kWh/m ³	↓	B301	年間電力消費量/年間配水量	0.25	0.24	0.25	0.29
有収率	%	↑	B112	(年間有収水量/年間配水量) ×100	95.9	96.1	95.8	91.1

4. 地域 ～吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業の運営～

項 目	単位	※1 優位性	※2 P I	積 算 方 法	基準年度	実 績	計 画	※3PI公表類似 団体平均
					平成30年度 (2018年度)	令和2年度 (2020年度)	令和2年度 (2020年度)	令和元年度 (2019年度)
水道事業に対する苦情対応割合	件/1,000件	↓	C504 を援用	水道事業に対する苦情対応件数/(給水件数/1,000)	—	0.5	0.5	—
イベント等による情報の提供回数	回	↑	—	イベント等による情報の提供回数	45	3	55	—
市民満足度	%	↑	—	(「満足している」等の回答数/アンケート回答総数) ×100	91.2	91.5	91.8	—

※1 優位性「↑」は数値が高い方が望ましい場合、「↓」は数値が低い方が望ましい場合

※2 PI=Performance Indicator：日本水道協会が平成17年（2005年）1月に制定し、平成28年（2016年）3月に改正した水道事業ガイドラインに定められている119項目の業務指標

※3 PI公表類似団体：給水人口30万人以上50万人未満、自己水比率30%以上100%未満で業務指標PI（JWWA Q100：2016）を公表している、
福山市、一宮市、横須賀市、高崎市、前橋市、倉敷市、豊橋市、高槻市の8事業者